

東亞植物雜報(三)

正宗嚴敬

Miscellaneous Notes on the Flora of Eastern Asia (III)

G. MASAMUNE

(昭和十三年三月二十三日受理)

23. **イシダサウ屬** (*Oreomyrrhis*) は臺灣の高地では二種の物が知られて居る一はイシダサウ (*O. involucrata* HAY.) で今一つはイシダサウモドキ (*O. gracilis* MASAMUNE) である、所が早田博士の東京帝國大學理科大学紀要第參拾冊第壹編 128-129 頁のイシダサの記事を見ると “*Involucris bracteae 2-seriatae, circ. 5 longissimae, 5-6 breviores, bracteae longiores lineares 2½ cm. longae 1½ mm. latae apice trifidae etc.*” と言ふ記事がある。イシダサウと言はれて居る物の多數の標品を見てみると、その總苞は非常に長い物と短い物の二種があり、長い方は一般に花柄が太く葉に短毛が密に生じて居る、所が總苞の長い物は花柄が細く葉に毛が無い、所が早田先生の臺灣植物圖譜一卷圖版四十を見ると本圖は明に花柄の太く毛のある物である。そこで私は臺灣總督府中央研究所林業部腊業館に所藏されて居るイシダサウの原標品(新高山産川上、森採集 no. 2249) を借覽して見た所此は明に總苞の長い物であつた。所が早田先生の最初の記事に出て居る研究標品には、此他に leg. S. NAGASAWA Nov. 1905 (no. 756) がある此標品は寫眞によつて見ると臺灣植物圖譜の圖と一致するらしい、それで私は早田先生の *Oreomyrrhis involucrata* には前述の二型が混淆して居るのではないかと言ふ結論に到達した、そこで此等二つの物を次のように取扱ひたい。

***Oreomyrrhis involucrata* HAY. var. *pubescens* MASAMUNE var. nov.**

Syn. *Oreomyrrhis involucrata* HAY. Mat. Fl. Formos. p. 128 (1911) p.p., et Ic. Pl. Formosa I. Pl. XL (1911).

24. シロバナタイワンシユロサウ、臺灣高地及大屯山麓にシユロサウの一種を産する、此はもとシユロサウ (*Veratrum nigrum* var. *japonicum* BAK.) と考へられて居たが、LAESNER 氏は臺灣物は別種と考へ *Veratrum formosanum* LAESN. f. なる學名を與へて居る。私は此物にタイワンシユロサウなる和名を與へてをいた、そしてそれに関連して此の種の内て緑白色の花を持ち花莖のしばしば分枝し壯大な物にシロバナタイワンシユロサウなる名稱と次の學名を與へてをいた。

Veratrum formosanum LAESN. f. var. *albiflora* MASAMUNE Short. Fl. Formos. 274 (1936) Flores albovirides.

Nom. Nippon. Sirobana-taiwansyurosô.

Hab. Nankotaizan (leg. S. SUZUKI Jul. 19, 1937).

25. タイワンヂンチャウゲ、臺灣のヂンチャウゲは日本内地で栽培せられて居る物と比較して見ると葉は大きく長橢圓形でやや波狀縁であるが栽培品は多くの場合幾分倒卵形狀の葉を持つ物が多い。臺灣産の物の花は白色で萼筒の外側に短毛が密生して居るが、栽培品には毛は全くないか又は少し生じて居るばかりである、臺灣産の物は此點むしろコセウノキ (*Daphne kiusiana* MIQ.) に似て居る、以上の諸點より考へて余は臺灣の物をヂンチャウゲの一變種と考へ次の學名を與へる事にした。

Daphne odora THUNB. var. *taiwaniana* MASAMUNE var. nov. Tubus calysis extus pubescens.

Hab. Formosa Taitonzan Jan. 30, 1938 (leg. K. MORI!) (Typ. in Herb. Imp. Univ. Taihoku).

26. ヒロハナヨシダ FRANCHET の *Cystopteris moupinensis* の原標品と臺灣高地産で *Cystopteris sphaerocarpa* HAY. と言はれて居る物とを比較して見ると此等の二種は全く同一のよう見へた、今一つ此に近い物で *Cystopteris sudetica* A. BR. et MILDE (ヤマヒメワラビ) と言ふ物がある、本種と臺灣産の所謂るヒロハナヨシダとは極近い物で大同小異の物であるが未だ本種の原標品を見ないから此所に決定する事が出来ないののでしばらく Christenzen の説にしたがひその變種名を採用する。

Cystopteris sudetica A. BR. et MILDE. var. *moupinensis* in Act. Hort. Gothob. I. p. 52 (1924).

Syn. Cystopteris moupinensis FR. in Nouv. Arch. II. p. 111 (1887).